

様式第4号(第5条関係)

政務活動費収支報告書



令和2年4月20日

(あて先) 飯能市議会議長

議員氏名 内 田 健 次



飯能市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり令和元年度の政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入 政務活動費 180,000 円  
2 支出 132,464 円

(単位: 円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	45,000	吉野町会派視察
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資料作成費		
資料購入費	81,350	書籍
人 件 費		
事 務 所 費		
その他の経費	6,114	文具、プリンターインク等
合 計	132,464	

3 残額 47,536 円

- (注) 1 備考欄には、支出の内訳を記載すること。  
2 領収書その他支出を証する書類の写しを添付すること。  
3 政務活動費収支報告書に係る政務活動事業実績報告書を添付すること。

政務活動事業実績報告書

議員氏名 内田 健次

飯能市議会政務活動費の交付に関する規則第5条第2項の規定により、令和元年度政務活動費に係る事業実績報告書を次のとおり提出します。

月 日	事業名	事業概要及び成果等
令和元年7月9日	愛学習机プロジェクト	<p>奈良県吉野町吉野町立吉野中学校視察 視察参加者 大津力・野口和彦・内田健次</p> <p>相手先 吉野町立吉野中学校 堀之内校長 吉野町産業振興課 表谷参与 吉野町教育委員会事務局 門西局長補佐</p> <p>創立 57 年 1281 人からスタート 当時は最先端教育現場として力を入れて取り組んでいた。 吉野町は林業が最盛期の時に、自慢の校舎を建てるという意気込みであった。 また、最高の校歌を作ろうと、佐々木信綱氏に多額を掛けても素晴らしい校歌として、校訓にもなっている。 現在新校舎に立て替えてから 10 年目に当たる</p> <p>「愛学習机プロジェクト」</p> <p>0 歳から 15 歳までの子どもたちに、木育プロジェクトとして包括的な取り組みを実施</p> <p>机を中学生と共に作成 20 分の木を山から出してくる工程を動画にして教育 天板は吉野檜 卒業式の間、民間協力団体が取り外しの 9 割を済ましておき、最後の 1 本を子どもに外させ持ち帰らせている 子ども同士は寄せ書きのようにして、机にメッセージなどを書いて思い出共有をしている</p> <p>RE:吉野と暮らす会との協力により事業が実現</p> <p>インフルエンザに掛かる生徒が減った！！</p>

抗菌効果にエビデンスあり

足の部分は内田洋行製（PL 法の関係）

「吉中友灯工房（よしちゅうともしびこうぼう）」中学3年生の取り組み

吉野高校との連携で、高校の先生が来て共同作業。コンテストもしている

和紙、割り箸、木材はご好意で調達

「木の町吉野取り組み」

平成28年日本遺産認定

植林・造林の技術、吉野杉檜

製造加工技術、ブランド、文化

植林の歴史は500年前

樽木材の製造職人を製材所で育成もしている

吉野杉の魅力発信

\* 吉野杉の家プロジェクト

\* Airbnb×建築家長谷川豪氏×吉野町

\* 吉野杉で牡蠣の養殖筏を使った牡蠣の販売

\* 木育 ファーストイから中学校の机まで

\* フランス、スペイン、イタリアなどからも問い合わせが来ている

\* ブランドの見える化

所感

古くからの地場産業である、吉野杉・檜を教育に取り組み、木育事業として0歳児から15歳児まで、世代で関わる木とのふれあいの工夫は大変素晴らしい。特に、愛机プロジェクトは、民間の企業やボランティア団体との関係を、行政側から提案をして巻き込んでいった行動力は、本市の職員にも大いに期待したい。

特に参考になったのが、奈良県の奈良の木ブランド課と協力し、檜の机の抗菌性を実証し、インフルエンザの感染が減少していることは、西川材においても同様の効果が期待され、商品価値高める発見となった。

今後は飯能市で実施した場合の関係者を洗い出し、西川材の新たな需要の拡大につなげていきたい。

また、森林環境税の交付が始まる中、飯能市からつながる流域の自治体との連携を模索し、川上から川下への自治体間交流や連携を進めていきたい。

次に、吉野杉魅力発信プロジェクトにおいては、2016年に東京お台場で開催された「HOUSE VISION2 2016 TOKYO EXHIBITION」において、

外資企業と著名な建築家と自治体が協力し、地元材のアピールとブランディング化に向けた、非常に前向きな取り組みであり、本市でも取り組むべき案件であると感じた。

飯能市では、メッツァを起点とした都市回廊空間を核とした、観光客の増加を狙っている中、宿泊施設が不足している現状を、地元材を活かした宿泊施設を設けることで、観光客だけではなく商品としてのミニハウスの開発も、今後の西川材の需要として期待できると感じた。

令和元年 7 月 10 日

## 自伐型林業の取り組み

## 自伐型林業の現場視察

### 視察参加者

大津力・野口和彦・内田健次

### 相手先

清光林業株式会社 岡橋相談役

清光林業は、吉野杉・檜の香りを楽しむ製品をお届けし、森の記憶は心穏やかな空間へと導くを理念に、自社で吉野の山を整備している。

吉野の山の特徴は、急斜面にもかかわらず、自社で木材を降ろしてこれる作業道を整備し、手入れが行き届いている。

中には林齢 300 年にもなる杉の集積エリアもあり、資産価値は非常に高い。

また、地域おこし協力隊を 10 人採用すれば、例えば 200 万人件費、200 万を設備投資※10 が可能であり、積極的な地域おこし協力隊の採用を勧めている。

### 以下現地でのメモ

- ・日本の林業は財産として持っている感覚
  - ・間伐していた場合は、手間賃が掛かっていたのを安く出来る
  - ・山主は「旦那」と呼ばれていた
  - ・意向調査で OK を出したところから成功事例をつくり噂にしていく
  - ・針広混交林の苗事業を福祉事業として産業化にすることが出来る。障害者とか
  - ・小面積の開伐なら大丈夫だが、開墾してしまうと資産がゼロになってしまう
  - ・国が撮った航空レーザースキャンはある！
  - ・林業の 6 次産業を実現している企業情報④美山町美山里山社
- 10 ヘクタールの山を買って、木を出して製材して家を作って売っている会社
- ・製材所は営業がないし出来ない
  - ・飯能は武蔵野の風景を売りにすべし
  - ・ケヤキ林とか関西に無い風景
  - ・武蔵野の森づくりがおススメ
  - ・林業でしんどい話では無く、楽しく楽しめる林業へ！

所感

林業の衰退の原因は複数あるが、基本的に民地であるため地主との交渉にとても苦勞されているとの事でした。

飯能市では地主に対して意向調査を完了しており、山の整備の協力を得たい方が明確になっており、今後の飯能市の第6次森林整備計画を元に、地主を始め林業関係者とも明確な共通の目的を共有し、ともに取り組める仕組みを構築する必要がある。

清光林業の岡橋氏は、現在飯能市内での自伐型林業家の育成に協力を頂いており、より一層の協力体制を作っていくご理解を頂いた。

飯能の林業再生においては、行政と議会、民間事業者が一体となって取り組むべき案件であり、今後の体制づくりにあたり大変有意義な視察となった。

(注) 使途基準の項目別に記載すること。